

INSPIRE No.27

ギフティッド教育ワークショップ

日時：3月25日(土)

時間：13:30 - 17:30

費用：3,500円

人数：定員15名(申込先着順で定員になり次第締め切りとなります)

場所：シーズンフリールーム 8F

住所：大阪市北区兎我野町3-22 ハイキャッスル梅田301

ギフティッドサポートグループミーティング

日時：3月26日(日)

時間：9:00 - 12:00

場所：スクエア荏原in品川

費用：1000円

お申し込み：office@jagifted.org

第5回：ギフティッド教育：キャラクター教育

ギフティッドの個別計画指導書の作成法

日時：3月26日 (日) 13:00 - 16:00

場所：スクエア荏原in品川

お申し込み：http://gifted5.peatix.com/



皆さんはサーカスを見たことがありますか。先日、木下大サーカスに行ってきました。海外のパフォーマーを含めた素晴らしいパフォーマーの人たちが、それぞれの芸を披露してくれました。猛獣使いも見応えがありましたが、私は見たことのないジャグリングが見られて大満足でした。ずっと盛り上がっていましたが、2回ほどサーカスのテント内のエネルギーが一つになった時がありました。一回目は、空中にぶら下がった前後に動く丸太の上で、ジャグリングをする時でした。パフォーマーがジャグリングを落としてしまい、本人も床に落ちました。2度目は10個くらいある輪っかを空中に投げ、一つ一つ頭にはめていく時です。どちらも失敗しても、「もう一回お願いします！」とジェスチャーで観客にお願いしていました。難しいことにチャレンジをしているパフォーマーに大きな声援を送りました。

大舞台でも、本番でも、失敗した時に、「もう一度お願いします！」とお願いできることって素敵だなあと感じました。できて当たり前のことももちろんあるのだと思うのですが、本番に、実は難しいことで、できないかもしれないということにチャレンジしているパフォーマーがいるという事を知った時は非常に感動しました。

私はよく、「すでにできるのであれば、もうそれはチャレンジではない」と話します。子供もたちも含め、皆さんは今、何にチャレンジしていますか。



アドボケイター

ギフティッドにはアドボケイター（応援する人）の存在が必要不可欠です。最初はエジソン同様に母がその存在を担いますが、特に思春期以降は親以外の存在がさらに必要になるのでは？と思います。例えるなら、アインシュタインなら下宿していた医学生、のび太ならドラえもん&しずかちゃん、サザエさんならマスオさん、のだめなら千秋先輩、オスカルならアンドレといったところでしょうか。

では、現在あなたのお子様にアドボケイターはいらっしゃいますか？
お子様の成長とともに、アドボケイターも変化し交代していくかも知ですが、そのときに常に存在しているならば、どんなにもギフティッドの励みになるのではないのでしょうか。

もし、学校の担任が可能なら探す手間もなく楽なのですが、日本は先生1人：生徒35人システムな限り先生は超多忙でお疲れ気味。どんなに良い先生でも担任チェンジでサヨナラですので、現実的ではありません。幼い子供に担任以外の大人を自分自身で探せというのは、あまりに酷で無理な話なのではと思います。

息子はあれこれと自分から習いたいと言わない子供で、かつ大多数が満足するような一般的な集団の習い事には、とても不向きな子供でした。そこで息子の興味と、息子が好きになりそうな先生、息子を好きになりそうなユニークな先生を、学校以外の習い事等で母の私がアンテナを張り巡らせて探しました。

大人になるに連れて、自分に合うアドボケイターに巡り合うことでしょう。
でも、子供時代はどのギフティッドも最初のアドボケイターは母ですよね？みなさんもわが子に寄り添いながら、これからもずっと応援していきましょう！ M.I



6月10日、11日に第4回ギフトッド教育カンファレンス2017が開催されます。2日目にはパッションプレゼンテーションがありますが、先日、パッションプレゼンテーションに参加希望の子供たち向けに説明会を開きました。アメリカの文房具店なら、10ドルくらいで売られているTrifold（3つ折りボード）も、日本のアマゾンで同じものが、10,000円くらいで売られています。20個も揃える予算はありませんので、アメリカから持って帰ってこようかと思っていたのですが、日本で探すことにしました。それは、結局アメリカでしか手に入らないのであれば、カンファレンス後に、参加者の子供たちが「やりたい!」と思っても、日本では手に入らないので、同じ寸法で、某ダンボール店でカスタム作成して頂きました。ポスタープレゼンテーションは基本的にはポスターのみですが、パッションプレゼンテーションは違います。もっと、自分の情熱を共有するために色々な要素を加えることができます。参加者の方もきっとそこで体験ができることだと思います。

情熱に向き合うのに年齢は関係ありません。色々なことを考えなくてはなりません。タイトルもそうですが、フック（注意を引く言葉）もそうです。どんな言葉をかけたら、参加者の人が足を止めてくれるか。止めてくれないと、情熱は共有できませんから。どんな物を使用して、参加者の方々に自分が興味を持って取り組んでいることを伝えることができるか。

建設的なフィードバックもパッションプレゼンテーションの醍醐味です。アドバイスを建設的にとり、自分の情熱に取り入れる人もいれば、批判的に取り、まったく取り入れない人もいます。今回は、「Two Starts and One wish - 二つの星と一つの願い」という方式で、参加者の方々がプレゼンターの皆さまに建設的なフィードバックを提供することができます。プレゼンターがそれぞれ準備する用紙に、プレゼンターの2つの魅力的な点、そして、こうしたら良いのかもという願いを1つ書くことができます。パッションプレゼンテーションは色々な意味で、ギフトッドの登竜門でしょう。ただ好きなことを発表するだけではありません。参加者募集中です。ぜひ、チャレンジしてください！お申し込みはoffice@jagifted.orgまで。



ギフトッドの子供でホームスクールを考えているご家庭に朗報です。

あなたの理想の家はどんな家ですか？自分の家をデザインする時、きっとプロの建築士に相談し、その人はあなたの要望を取り入れ、あなたのこだわりを高度なレベルで実現してくれるでしょう。それはいわゆる匠の技です。まったく考えてなかった空間の使い方や、素材などを提案してくれるかもしれません。結果、自分の理想としていた家より素晴らしい家になるのではないのでしょうか。それでは、ホームスクールはどうでしょうか。皆さんが理想とするホームスクールはどういった形でしょうか。そして、カリキュラムはどうでしょうか。



FPホームスクールで、世界で一つのカリキュラムを作りますか。日本中のホームスクールの家族が繋がります。あなたの唯一のカリキュラムはどんなものなのでしょうか。あなたのホームスクールのデザインをお手伝いします。ホームスクールのやり方は星の数です。可能性は無限大です。それぞれ家庭や子供に合うやり方でホームスクールをしませんか。それをステップbyステップで学ぶ事ができます。これからは積極的にホームスクールを選択する時代に突入します。1人のホームスクーラーを作ることによって一つの家族が幸せになります。そして、その幸せは世界と共有されるでしょう。

「願う」、「探す」から、「作って楽しむ」へ

文科省によると、平成27年度の小学生、中学生の不登校生の数は123,000人です。色々な理由で子供たちが学校に行っていません。そして、学校に行かないと、不登校児というラベルが貼られてしまいます。これはフェアじゃありません。子供が自尊心や自信を育んでいる時期に、こういったラベルは必要ありません。そして、不登校が不幸ってわけでもないのです。学校に行かなくても毎日を充実させている子供たちもいます。アメリカでは、親が学校を教育の場所と選択しない場合、ホームスクールという教育の形を選択します。不登校児ではなく、ホームスクーラーです。一方、日本では、子供が学校に行かないと決めた場合、大抵は二つの選択をするよりなく、子供への義務教育が十分に提供されないのではないのでしょうか。それは、現在の日本の教育環境上、致し方ないことかもしれません。

一つ目は「願う」という選択です。毎朝、「今日は学校に行く」または、「今日は学校に行かない」という子供の言葉に、「学校に行ってもらいたい」と願います。きっと、ほとんどの子は親を喜ばそうと必死に頑張るでしょう。でも、子供は辛い思いが増す場合が多いのではないのでしょうか。子供によっては、学校という学びの環境が著しく不一致である場合もあり、毎日が虚無感や無力感に苛まれるかもしれません。それか、いじめにあっている場合は、日々を心身ともに安全じゃない場所で過ごすさなくてはなりません。

二つ目は「探す」という選択です。学校以外で、子供の受け入れ先、また、子供の居場所を「探す」という選択です。人との出会いは縁ですので、良いコミュニティに出会う場合もあれば、出会えない場合もあります。その場所に通うかどうかの決定は子供に委ねる場合が多いので、子供たちは少しでも嫌な事があると、辞めてしまう傾向があります。フリースクールによっては「子供たちの主体性に任せています。ゲームをしても良いし、勉強しても良いし。子供たちのやる気に任せています。」など、あまりにも子供の「やる気」を尊重しすぎて、子供が「できる事」と「楽しそうな事」だけを選んでいないのでしょうか。大切な教育の選択も子供に選択させてはいないのでしょうか。結果、探すという状態が長い間続いているケースがあります。

「願う」または「探す」という事、これは自然です。子供が心身ともに元気でない場合、お父さんやお母さんは大変心配でしょう。そして、ホームスクールが教育として認められていない日本においてはこの2つは自然な選択です。しかし、どのくらい「願う」または「探す」という事に時間を費やすか。または、ホームスクールを積極的に選択し、「作って楽しむ」というのも選択です。願っていたり、探している状態が続いている時、子供は必要な教育を受けられていますか。それとも教育はストップしていますか。教育は勉強面だけではありません。子供の内面の自尊心や自信を育む機会もストップしているかもしれません。

これからは「作って楽しむ」という選択があります。積極的にホームスクールをするという選択肢を考えてみてください。子供たちに合ったカリキュラムで、子供たちをチャレンジする事ができます。知識やスキルばかりを同じ年齢のクラスメートと学ぶより、知識、スキルだけでなく、人生の価値観なども魅せてくれるメンターとの学び方が合う子供もいます。ランドセルより、リュックが似合う子だっています。自尊心や自信を育みながら、自分の魅力を探求するでしょう。きっと明日が楽しみになるでしょう。活動量が増えていくと、活動領域も増えていきます。結果、自然に、子供はメンターや応援者に囲まれているでしょう。

FPのスタッフたちは、アメリカで、いわゆる天賦の才能を持った子供たちを教えていました。ギフトッドの子供たちは魅力が満載の子供たちです。生徒一人一人が新しい自分の魅力を探求して、輝いていました。その学校で一緒に教えていたドリームチームと呼んでいた先生方も、魅力的で、クリエイティブでした。いわゆる「匠」たちです。安心できるコミュニティの中で、誰もが一人の人間として尊重され、自分の潜在能力を最大限に引き出していました。黄金期のドリームチームが作り上げた教育哲学のメソッドがFPホームスクールの「DIYで作るカリキュラム」の基盤となります。「DIYで作るカリキュラム」なら、世界で一つのカリキュラム。「DIYで作るカリキュラム」なら、あなたのカリキュラムは枠に当てはまらないアイデアで満載。子供に世界で一つの最高なカリキュラムを作りませんか。あなたがどこに住んでいても、FPホームスクーラーになれます。

私たちはカリキュラム作成のお手伝いをするだけではなく、あなたのホームスクールをサポートします。

FPホームスクールは3学期制です。

春学期 4月 5月 6月 秋学期 9月 10月 11月 冬学期 1月 2月 3月



晴耕雨読 時々 雨耕晴読

ホームスクールを始めてお母さんが
ブログを始められています。

<http://fphomeschool7.blogspot.jp>